

「合同企画展」で文・板坂ゼミ生
本学図書館と川崎・砂(さき)で開催され、360子の里資料館との合同企画展「目の果報、知の至福 江戸の文華―戯作と浮世絵―」が10月、川崎市「アートガーデンかわ



▲「川崎」を来場者に解説

期間中、文学部・板坂則子ゼミでは川崎特別チームを組み、ゼミ生が会の一角で「川崎」にちなむ土地や作品の解説を行ない、好評だった。両館が所蔵する戯作コレクション(専修大学)と浮世絵コレクション(川崎・砂子の里資料館)から、えりすべりの240作品を集めた展覧会。作品を学生の目線で解説しようとして、「川崎宿周辺文学MAP」や川崎大師の霊験(御利益)を題材にした曲亭馬琴の黄表紙(※)、「大師河原撫子話」登場人物相関図(※)を大きなパネルにして会場に掲げた。来場者は「昔の川崎はこんなところだ

「よいさっ、よいさっ」と威勢のいい掛け声、木遣り唄、そして歓声が境内に響き渡った。晴天に恵まれた10月17日、諏訪大社御柱祭で有名な御柱奉納が東京・九段北の靖国神社で初めて行われ、相撲部員らが御柱の曳き手に加わり、祭りを盛り上げた。「御柱」は7年目ごと、生や教員に加え、寅と申の年に開かれる大祭。今回の曳行は春開と合同合宿した法催された御柱祭に参加できなかった戦没者の慰霊にと、長野県茅野市北山・米沢・湖東地区に住む諏訪大社の氏子らによる実行委員会が企画した。本学の社会関係資本研究センターで諏訪地方のコミュニティ形成と御柱祭を研究テーマにする小西恵美経済学部教授が靖国神社での開催の報を聞き、協力を申し出た。同センターで相撲部部長を務める佐島直子経済学部教授も「相撲部を動員し、まじろ」。同部員10人と佐島ゼミ生、長野県出身の学

ネットワーク情報学部創立10周年、情報科学研究所30周年記念の特別講演会「インターネット社会の将来と大学教育を語る。MILESTONE : 10」を、語る。MILESTONE : 10」が10月9日、生田キャンパスで開催された。教員・関係者をはじめ卒業生、在学生ら約150人が出席した。



▲「ネットワーク情報学部創立10周年」「情報科学研究所30周年」記念特別講演会

インターネット社会の将来と大学教育を語る。MILESTONE : 10

「学部の強みである『ネットワーク』を活用して、20人も卒業生が集まってくれました。ツイッターには在学生以上に卒業生のフォロワーが多く、学部と世代を超えたネットワークの形成に努めていた。」

活用で参加者募集 ツイッターとブログ名簿をつくらず、ブログとツイッターで告知した今回の企画を中心に進めてきた松永賢次准教授に感想を聞いた。



▲ 終了後の懇親会で乾杯の発声をする坂本貴名准教授



▲ 大活躍の相撲部員ら参加者たち

長野・諏訪大社の「御柱」 相撲部員ら30人 曳行に加わる

「よいさっ、よいさっ」。威勢のいい掛け声、木遣り唄、そして歓声が境内に響き渡った。晴天に恵まれた10月17日、諏訪大社御柱祭で有名な御柱奉納が東京・九段北の靖国神社で初めて行われ、相撲部員らが御柱の曳き手に加わり、祭りを盛り上げた。

「御柱」は7年目ごと、生や教員に加え、寅と申の年に開かれる大祭。今回の曳行は春開と合同合宿した法催された御柱祭に参加できなかった戦没者の慰霊にと、長野県茅野市北山・米沢・湖東地区に住む諏訪大社の氏子らによる実行委員会が企画した。本学の社会関係資本研究センターで諏訪地方のコミュニティ形成と御柱祭を研究テーマにする小西恵美経済学部教授が靖国神社での開催の報を聞き、協力を申し出た。同センターで相撲部部長を務める佐島直子経済学部教授も「相撲部を動員し、まじろ」。同部員10人と佐島ゼミ生、長野県出身の学

底力発揮 華やかなV字形の「メドデコ」が取り付けられた長さ13段、幹回りが最大で3段近くの御柱は、相撲部員であり佐島ゼミ集まった700人に曳かれ第一鳥居を出発。「メドデコ」に乗った若者たちが左右に揺られながら、子どもや参拝者も曳行に加わった。



▲ 「よいさっ」の掛け声が響き渡った靖国神社境内



▲ 「よし行くぞ」―曳行に挑む

過、大詰めの拜殿前では曳き綱をするスペース確保が困難になり、曳き手を減らしての曳行となったが、ここで相撲部員の北山・米沢・湖東地区若手の会で、今回の曳行を担当し、本番に大参加した「三友会」(両角力会)のメンバーは「相撲部をはじめとする専大の皆さんの若い力はとても心強かった」とたたえた。

第二鳥居、神門を通をかみしめています。これからの部活動の励みに「なりました」と興奮さめやらぬ様子で語った。

デジタルフォト
田区神保町1の10 ☎03(3291)0034
※カメラ太陽堂―東京都千代田区神保町1の10 ☎03(3291)0034

ベテランが支える街の写真店

創業は1947年。前身はカメラ太陽堂光機。戦後、町工場からスタート、豆方メラや二眼レフの「ビューティ」が花開いた。工場は現在の店舗の裏手であった。

カメラ太陽堂

「サンシエル」の写真が飾られ、そんなところから客との撮影談話が始まる。「プロを特別扱いするのでなく、あらゆるお客様にわけ隔てなく応じるようにしています」と山科久夫店長。かつては赤坂の東急ホテル(現・エクセルホテル東急)にも支店があり、お得意さんには故橋本龍太郎、福田康夫両元首相も。「橋本さんはしょっちゅう立ち寄ってくださいましたよ。撮影がお上手で、個展を開くほどの腕前でした。福田さんはメカに詳しく、カメラの構造の質問をよく受けました」と山科店長は懐かしそうに話す。